



港南小学校

学校だより

1月号

二十四節気・七十二候

<1月の二十四節気>

- ・1月6日 小寒
寒気稍強し
- ・1月20日 大寒
厳寒を感じ

<1月の七十二候>

- ・芹乃栄
せりすなわちさかう
→芹がよく生育する
- ・水泉動
しみずあたかをふくむ
→地中で凍った泉が動き始める
- ・杯始鳴
きじはじめてなく
→雄の雉が鳴き始める
- ・欽冬華
ふきはなさく
→蔭の臺が蕾を出す
- ・水沢腹堅
きわみずこおりつめる
→沢に氷が厚く張りつめる
- ・鶏始乳
にわとりはじめてとやにつく
→鶏が卵を産み始める

校長 船木 亮作

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひします

千支でいうと今年は「丑」年になります。『漢書』律曆志によると「丑」は「紐」（ちゆう…からむの意）で、芽が種子の中に生じてまだ伸びることのできない状態を表しているとされています。昨年は、コロナ禍の中、我慢する時期が続きましたが、今年こそはこの感染症が終息し、ある程度元に近い生活環境が戻ってくることを願うばかりです。しかし、実際はまだこの感染症が収まったわけではありません。そこで、この機会に自分自身の力を蓄えることが必要であると考えます。昨年、幼稚園の研究発表の中で、次のようなお話がありました。

「幼児期や児童期は、大人になる土台づくりで、それをどう獲得していくかが大切である」と言うことです。その際、このコロナ禍と重なり、ある言葉を思い出しました。それは、元三洋電機の副社長・故後藤清一氏の有名な言葉です。

「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ、やがて大きな花が咲く」
土台づくりには、様々な体験や経験が必要となつてきます。バーチャルの世界だけでは、真の土台とはなっていないかもしれません。

本校は、今年度から「豊かな心」の育成のために『協働的な学び』をテーマに研究を行っています。対話的な活動が制限される中でも、できるだけ友達と意見を交わしながら自らの考えを深めていけるようにと考えています。昨年末、一人一台のタブレットが配られ、デジタルによる学習が可能になってきました。しかし、SNSの浸透により、たくさんの情報の中から一人一人が選択しなければならぬ時代になりました。その際、大切なことは、自分で考え、

決断することができかねるかが先の見えない時代を生き抜いていけることに繋がっていくと考えます。

反面、タブレットが配布されたことにより、一人一人の進捗状況を確かめたり、個別の課題に取り組むことが出来たりと多様な学習方法が可能になります。現在、教員も「どのようなことが出来るか」「どのような活用するとより効果的か」などの研修を行い、有効に活用できるようにしていきたいと考えています。冬休みの期間中、それぞれの家庭に持ち帰りましたが、いかがだったでしょうか。一年生にとっては、これから六年間の蓄積がクラウド上に残されていきます。ぜひ、子供たちの学習の積み重ねを見守っていただければと思います。

さて、タブレットの活用も大切ですが、その中でも「Face to Face」なくして子供同士の共感を生み出してこないのではないのでしょうか。

ソーシャルディスタンス（社会的距離）という言葉がよく使われますが、これはフィジカル（物理的）なディスタンスのことであり、ソーシャルは相手と向き合うことによって成立するのだと考えます。ソーシャルイゼーション（共同化）は、人間は人と会った瞬間にエンパシー（共感）が生まれます。ですから、デジタルでは、本当の意味で相手の視点に立つことが出来ず、真の共感を生まれないと思います。

人との関わりがあれば、時に傷ついたり、ぶつかりたりすることがあります。しかし、いつまでも一人で閉じこもっているのは、心はいつまでも傷ついたままです。怖くても一歩踏み出すことによって何かが生まれ、

人間という字に戻り考えてみると、やはり「人」の「間」に立つことで子供たちは成長していくのではないのでしょうか。

「決意の一年」

◇あけましておめでとうございます。昨年は保護者や地域の皆様が大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

日本漢字能力検定協会が発表する「今年の漢字」。昨年末に発表された字は「密」でした。港南の子供たちは令和三年をどのような一年にしたいと考えているのでしょうか。漢字一字で表すとしたら…。

「昨年は〇〇だったから、今年は（も）〇〇したい」と決意の一年にできるよう、ぜひ家族で発表し合ってください。目標を自己決定し、時に振り返り、次に生かそうとする生き方は「豊かな心」を育みます。

◇今年度も外部有識者を招いて「いじめ・不登校対策委員会」を開催しました。いじめや長期欠席児童への対応について、解決の糸口を見付けようと協議をしています。

児童への生活アンケートでは、複数の教員による協力体制で、聞き取りや指導・支援を行っています。その中には、地域や福祉の力を必要とする事例もあります。今年も家庭・地域・学校が一体となって子供たちの豊かな心を育てていきたいと考えています。

（生活指導主幹 小清水 孝）



東京都港区港南4-3-28
TEL 3474-1501・FAX3474-1500

港南小学校HP

2月の主な行事予定

- 1日（月）セーフティタイム
- 2日（火）社会科見学（4年1・5組）
- 4日（木）校外学習（わかば）
- 6日（土）土曜授業日
- 8日（月）委員会活動
- 11日（木）建国記念の日
- 12日（金）保護者会（6年）、社会科見学（4年2・3組）
- 15日（月）クラブ活動
- 16日（火）新1年生保護者会
- 19日（木）移動教室前日検診（6年）
- 20日（金）卒業・進級を祝う会（わかば）10：15
移動教室始（6年1・2組）
- 21日（日）移動教室終（6年1・2組）、移動教室始（6年3・4組）
- 22日（月）移動教室終（6年3・4組）、移動教室始（6年5組・わかば）
4時間授業（6年1・2組のみ）
- 23日（火）天皇誕生日、移動教室終（6年5組・わかば）
- 24日（水）4時間授業【12：50頃下校】
振替休日（6年）
- 26日（金）感謝の会（6年）
下校時刻変更【6年のみ下校時刻変更】

副校長より

この冬休みからタブレットが一人一台配布されました。これからの時代は、子供たちが自由に使えるようになっていくだけでなく、何かが起きたときに自分の頭で考えて行動できる「非認知能力」が重要になってきます。当然、「見える学力」を育成していくことは重要なですが、この非認知能力は、一人では伸ばすことができません。集団の中で生活していくことで伸びていくのです。

ますが、私は、四つの力が重要だと考えております。「人を大切にする力」「自分の考えをもつ力」「自分を表現する力」「チャレンジする力」です。これらの力は、人間同士の関わり合いの中でしか育たないと考えております。本校では、これからも子供たち同士が学び合い、課題を解決していく力を育んでまいりたいと考えております。

（副校長 原島 謙一
久道 泰司）

1月の行事予定

8日	金	始業式、給食始、土曜時程5時間授業
9日	土	土曜授業日
10日	日	
11日	月	成人の日
12日	火	書き初め会（1・2・3・6年） 発育測定（4年）、セーフティタイム
13日	水	土曜時程4時間授業・下校時刻変更【12：45頃下校】 書き初め会（5年1～3組）、発育測定（6年）
14日	木	書き初め会（4年・5年4～6組、わかば） 発育測定（5年）
15日	金	避難訓練、発育測定（3年）
16日	土	
17日	日	
18日	月	発育測定（2年）、委員会活動 社会科見学【港区巡り】（3年）
19日	火	発育測定（わかば）、社会科見学【港区巡り】（3年）
20日	水	土曜時程5時間授業・清掃なし 下校時刻変更【13：50頃下校】 発育測定（1年）
21日	木	
22日	金	
23日	土	土曜授業日、英語検定（希望者） 道徳授業地区公開講座4校時【体育館】
24日	日	
25日	月	ユニセフ週間始、クラブ活動
26日	火	社会科見学【港区巡り】（3年）
27日	水	土曜時程5時間授業・清掃なし 下校時刻変更【13：50頃下校】 薬物乱用防止教室（6年）
28日	木	漢字検定6校時（希望者） 清掃なし、下校時刻変更【14：20頃下校】
29日	金	社会科見学（4年4・6組）
30日	土	
31日	日	

	わかば	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数（人）	30	227	223	221	233	215	199	1348

（1月8日現在）

四年生より

十二月二十二日に、四年生は文化的行事として「みんながハッピーフェスタ」を行いました。全クラスが縁日のように様々なお店を出店し、皆を楽しめました。

国語の学習で、よりよい話し合いの仕方学習しました。それを生かしてクラスごとに、皆が楽しむためにはどのようなことを大切にしたらよいか、どんな出し物をするかなどを話し合いました。子供たちからは、皆が楽しくなる声掛けをしたり、相手を受け入れる気持ちや大切にしたりすることが挙げられました。子供たちはそれを踏まえて、準備の段階から「皆が楽しく」ということを意識して活動をしていました。

当日は、各グループで考えたお店にお客さんと呼ばび込み、一生懸命工夫して友達を楽しませようとする姿が見られました。子供たちは生き生きと、楽しそうに活動していました。クラスで振り返りをした際、「学年のみんなと一緒にできて楽しかった」「協力できた」と達成感を得ていました。

学年目標の「一致団結」した姿が多く見られた時間となりました。今後も、友達と協力することの大切さを感じさせながら、高学年としての自覚を育ててまいります。

(四年一組担任

竹内 麻美)



わかば学級より

「豊かな心」の育成を目指し、今年度も生活単元学習で研究を進め、十一月に低学年、十二月に高学年が校内研究授業を行いました。わかば学級の子供たちは、生活に根差した内容や体験的な活動主体の生活単元学習が好きで、いつも生き生きとした姿を見せてくれます。

低学年は「港南の町たんけんたい」という単元で、和楽公園や緑水公園、港南三丁目遊び場、港南公園を巡り、公園にある施設を確かめたり遊んだりしながら、公園に共通する施設に気付く、友達と一緒に行動できるようにしてきました。また、町たんけんのまとめでは、学校の近くの店で、探検に持っていく飲み物を自分で買う体験もしました。子供たちは、楽しい経験を積み重ねることで様々なことに意欲的に取り組みようになり、さらに成長していくことに改めて気付かされました。

高学年は「空気の不しぎ」という単元で空気の状態について調べました。様々な実験道具を使って空気を袋に閉じ込めたり、水の中で空気を泡として見たりする実験を通して空気の性質を確かめることができました。実験を重ねるごとに、自分の係を意識して積極的に実験に臨むようになり、班で協力し合う場面が多く見られました。また、授業が終わると「次の実験ではこんなことを確かめたいね」と話す子供たちもあり、実験を楽しみにしている姿が見られました。

これからも、子供たちが意欲をもって学習し、仲間同士で互いの良さに気付き合えるような授業を作っていきたいと思っています。

(わかば学級担任

藤井由起子 渡辺真理)

Music & Art Festa

十二月五日に六年生がミュージック&アートフェスタを行いました。全体ではなく、クラスを分けての実施でしたが、音楽会と展覧会を同時開催することができました。

音楽会では、リコーダーアンサンブル、リズムアンサンブル、そして合奏「エルクンパンチエロ」を発表しました。休み時間にも練習を重ねてきた子供たちが、真剣な表情で演奏している様子が印象的でした。

展覧会では、図画工作「一版多色版画」と家庭科「港南小ゆるキャラ大図鑑」を展示し、全学年にも見ってもらうことができました。

五年生からは、合奏に対して、「初めの音に体中がしびれました」「みなさんのように演奏したいです」などと、お手紙をもらいました。

下級生や保護者の方からもらった言葉を胸に、三学期も最高学年として過ごしてもらいたいです。

(六年四組担任 岡戸 奈都子)

国語部より

本校では、毎年、低学年は硬筆、中・高学年は毛筆で、書き初め会を行っています。今年は学年によって二つに分かれて実施するため、十二日(火)から十四日(木)までの三日間、教室及び体育館で行われます。

書き初め会を行うねらいは、「書き初めの作品を書いたり鑑賞したりすることを通して、文字への関心を高める」と「伝統行事の一つである書き初めを

行うことを通して、日本の文化に触れる」です。

普段の学習ではなかなかじっくり確かめることができない、姿勢・筆や鉛筆の持ち方をしっかりと意識できるよい機会です。手本を見て、一文字一文字を丁寧に、正しい字形で書くことができるように二学期にも練習を行いました。

書き初め会では今までの練習の成果を発揮してくれることと思います。

(国語部 小林 鮎美)

クラブ紹介

陸上クラブ

陸上クラブは、四年生十四名、五年生二十名、六年生八名の計四十二名で活動しています。

活動内容は子供たちがどのような活動を行いたい話し合い、走の運動や跳の運動などを月ごとに行っています。タイム計測やチーム決めなど、自分たちで考え、積極的に行動しています。

また、自分の記録だけでなく、友達と切磋琢磨して応援したり励まし合ったりと協力して取り組んでいます。

陸上クラブでは、仲間と運動する喜びを感じながら、挑戦・自主性・協力することを大切にしていきます。



(陸上クラブ担当 河井 由美)

サッカークラブ

サッカークラブでは、各学年混合のチームを六チームつくり、ミニゲームを中心とした活動を行っています。

サッカー経験者が多く、いつも白熱したゲームになることが多いです。六年生が中心となって準備運動、チーム練習、ミニゲームを行うことで、主体的に運動に取り組む児童が増えてきています。

三学期は、五年生が中心となってクラブ活動を行っていきけるよう、計画しています。サッカー経験者も、運動が苦手な子も、全員が楽しくサッカーを行える環境をこれからも整えていきます。

(サッカークラブ担当

大久保 勝国)



パソコンクラブ

パソコンクラブでは、一人一台配布されたタブレットを活用し、様々な活動を行っています。前回の活動では、パワーポイントで自己紹介を作成し、発表しました。



氏名や好きな食べ物、将来の夢など、自分のことを知ってもらうために必要な項目を自分たちで考えました。初めてパワーポイントを操作する児童も多くいましたが、関連する画像を挿入したり、スライドアニメーションをつけたりと、工夫する様子が見られました。

三学期も子供たちの「やりたい」という思いを大切にしながら、タブレットを効果的に活用していきます。



(パソコンクラブ担当 小和瀬 皓惟朗)

室内遊びクラブ

室内遊びクラブは、六年生五名、五年生七名、四年生五名、合計十七名で活動しています。

オセロやチェス、ダイヤモンド等のボードゲームを楽しむ子。囲碁や将棋の対戦に熱中する子。トランプやウノのカードゲームに興じる子。また、けん玉や独楽、だるま落とし等の昔遊びに取り組む子。「これをやりたい」「やってみたい」と、自分で内容を決めて楽しく活動しています。勝ち負けに一喜一憂したり教え合ったり、技を披露したりしながら皆で仲よく活動しています。二学期は、自由に選んだ遊びに取り組んできました。三学期は、全員でオセロトーナメントを計画しています。

(室内遊びクラブ担当 實松 里津子)

卓球クラブ

今年度の卓球クラブは、四年生から六年生まで、総勢三十四名で活動しています。クラブ長のリーダーシップのもと、自分たちで準備・片付けを進んで行い、楽しく運動に取り組んでいます。

プラリバなどで卓球をやったことがある子、温泉でやったことがある子、全く初めての子など、子供によって経験の違いはありますが、二学期は学年ごとにグループを組んで、練習しました。初めは、来たボールを返すのに精一杯の子も、何回かラリーを続けられるようになり、どんどん上達する姿が見られます。

三学期には、リーグ戦やトーナメントを通して、ゲームをする楽しさを味わわせていけたらと考えています。



(卓球クラブ担当 嵐 一寛)

農業クラブ

今年度の農業クラブは、総勢三十三名で活動しています。コロナの影響で活動開始が遅れたため、野菜の苗の入手が困難な状況になりました。そこで、屋上農園の整地作業に並行して、自分たちの手で苗を作ることにしました。春野菜の種をポットに入れて自分たちのクラスに持ち帰り、発芽するまでの間、管理をしました。十二月の活動では、育てた苗を無事農園に移すことができました。三月までの活動期間内には野菜が収穫できるよう、心を込めて育てていきたいと考えています。

農業クラブでは、こうした活動を通じて、植物を始めとする生き物を愛でる気持ちを大切にしながら、豊かな心を育んでいきます。



(農業クラブ担当 戸室 勇児)